

- ▶ 東京山手メディカルセンターに移行して／院長 万代 恭嗣
- ▶ JCHOへの改組にあたり／事務部長 佐々木 仁史
- ▶ 外来診療担当表
- ▶ 総合医療相談室のご案内・フェアウェルパーティーを開催しました
- ▶ 整形外科医長新任のごあいさつ～膝・スポーツ障害の治療～／整形外科・医長 田代 俊之
- ▶ 地域連携室開設、総合内科医長就任のごあいさつ／地域連携室長・総合内科医長 笠井 昭吾

▶ 東京山手メディカルセンターに移行して

院長 万代 恭嗣



去る平成26年4月1日に、旧社会保険中央総合病院から独立行政法人地域医療機能推進機構東京山手メディカルセンターに移行いたしました。病院名の先頭に付されている機構の名称はかなり長く、これに病院名を付けると全部で29文字となります。

これでは長さだけでなく固い印象もあり、また皆様に馴染みにくいため、尾身 茂理事長の方針で、独立行政法人地域医療機能推進機構の略称がJCHOとなりました。読み方は、ジェイチャーではなく、ジェイコーと読みます。これは、地域医療機能推進機構の英訳である、Japan Community Health care Organizationの頭文字をとったものです。一時は、「独立行政法人地域医療機能推進機構」の略称を「独立行政法人地域医療機構」とすることも検討されていましたが、普段使用する略称としては、より馴染みやすいJCHOに落ち着きました。そしてJCHO傘下には、当院をはじめ、全国に展開する57の病院と26の介護保険施設などが属し、入院ベッド数は14,950床のグループ病院となりました。東京には、当院のほか、同じ新宿区内にある東京新宿メディカルセンター、港区の東京高輪病院、大田区の東京蒲田医療センター、江東区の東京城東病院の5つがあります。

この病院グループの運営は、独立行政法人通則法によって規制されています。すなわち、国民生活などに必要な事業のうち、国が直接に実施する必要はないが、民間に委ねると必ずしも実施されないおそれがあるものを、効率的かつ効果的に行うことを目的に設立される法人と規定されています。所掌は、国立病院機構などと同じ、厚生労働省となります。

独立行政法人であるJCHOの使命として、すでにいくつかの機会をいただき説明してまいりました。簡単にまとめ

ると、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応えるために、その使命として

1. 地域医療、地域包括ケアの要としての役割
2. 地域医療の課題の解決と向上、情報発信
3. 地域医療の要となる人材育成

が設定されています。

そして、診療事業には、地域における医療連携への取り組みとして、患者さんの紹介、逆紹介を推進し、高額医療機器の共同利用を推進、開放型病床の運営、地域の医療従事者および住民に対する研修の開催などを、その中心に据えています。また、いわゆる5疾病5事業のうち、5事業の実施が求められており、当院では、このうちの救急医療、災害医療、周産期医療に特に力を入れてゆきます。

すでに移行して3ヶ月が経過し、受診される患者さんにとっては、あまり違和感のない移行ができたと考えています。さらに地域をはじめとしてすべての医療機関の皆様、東京山手メディカルセンター、と自然に新病院名で呼んでいただけるよう、60年以上におよぶ旧病院のこれまでの実績を伸ばしつつ、新たに与えられた使命にも積極的に取り組んでゆく所存ですので、今後とも当院をよろしくお願い申し上げます。





国の財政悪化や少子高齢化などで社会が目まぐるしく変化しているなか、日本の医療も変革の時期を迎えています。

社会福祉財源の充実を目的として消費税が8%になりましたが、病院の収入となる診療報酬点数は厳しく、さらに急性期病棟を多く持つ医療機関には厳しい算定条件が示されました。医療機関を維持存続していくためには時代の要請や変化への対応が必要ですが、そう簡単に方向転換はできません。今回の改定では7対1入院基本料の維持が焦点の一つでしたが急性期病棟を持つ多くの病院は厳しい時代となりました。医療機能を大幅に見直さなければ生き残れない病院もあるでしょう。病院という組織は他の組織では見られない多職種専門家の集団で正に人間が資本です。職種毎の必要人員対総人件費、施設基準取得対収入、そして利益を判断することになります。人間という資本は安定せず人材確保は容易ではありません。当然、いきなり人減らしも出来ません。

そのような内情の中で、患者側の期待は、高度な医療の提供、医療サービスの充実、安全な医療の提供、治療環境の改善など、時代と共に欲求は膨らむばかりです。

私もこれまで医療機関に関わる職にどっぷりと浸かってきましたが、医療機関を取り巻く環境が厳しいのは今も昔も同じで、安定した時代があった記憶はありません。大中小病院、診療所、介護施設でも同じような悩みを抱え、医療者側の使命という漬物石に押さえられながら地域に根付き、時間をかけて努力を積み重ねてそれぞれの味を出しつつ患者さんに喜ばれるものを生み出しているのです。

私共の施設は、本年4月に地域医療機能推進機構(JCHO)に改組し数ヶ月が経過いたしました。社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院の病院57施設、介護老人保健施設26施設、訪問看護ステーション12施設、地域包括支援センター10施設、看護専門学校7校がある病院グループとなり、ネットワークを生かして5疾病5事業をはじめとする地域医療を担っていくのが使命となりました。

これまでの組織変更の道のりは紆余曲折・波瀾万丈で、平成14年から整理合理化の議論が始まり一時は全て譲渡の計画でしたが、地域に不可欠の病院も多く地域医療への影響が大きいことから平成23年6月に存続が決められました。独法化に向けて平成24年9月から厚労省に置かれた検討会の審議を経て法人制度の骨格が決まり、平成25年度

には具体的に組織変更の準備を急ピッチで進め、平成26年度に新法人設立となりました。

JCHOの個別法である地域医療機能推進機構法には、「広く利用者その他の関係者の意見を聴いて参考とし、地域の事情に応じた運営に努めなければならない」と謳っています。具体的には、行政、医師会、関係医療機関、学識経験者、病院利用者を構成員とする地域連絡協議会を開催し、意見交換の場を設け、意見を反映して地域医療において必要とされる医療を提供し信頼のある病院づくりを実行することが求められています。高度急性期から在宅医療にわたる地域の幅広い機関と役割や機能を分化して、協力し連携していくことも使命の一つとなりました。

時を同じくした診療報酬の改定でも、超高齢化社会に対応するべく医療機関の機能分化・強化と連携・在宅医療の充実強化が診療報酬に盛り込まれました。また、地域包括ケアシステムの構築という大転換期を迎えたのです。

当院は外から見ると病院の名称が変わっただけのようではありますが、時代に沿った設置目的を持ち、それに相応しい組織形態に納まったのではないかと考えています。

これからの医療連携は、紹介率のパーセントを上げ診療報酬上のメリットを求めるだけでなく、救急から介護、在宅を含めた地域医療にどのように関わられるのかが問われています。医療連携は医師やMSWだけではなく、我々事務サイドの役割や関与が益々重要になっていくと考えています。

私も事務部長として引き締まる思いで新組織の運営に臨んでおりますが、併せて、社保中の歴史を引き継ぎ、愛され信頼される病院を目指して努力をしたいと思っております。

何卒、これからも東京山手メディカルセンターにご支援をいただきますよう、紙面を借りてお願い申し上げます。



外 来 診 療 担 当 表

平成 26 年 7 月 1 日

※赤字は女医

※ 07月変更

診 療 科			月	火	水	木	金			
内 科	午前 内科1	1 診 2101	循環器	加藤陽子【循】	野田誠【循】	薄井宙男【循】	薄井宙男【循】 初診	仲村太一【循】 初診		
		2 診 2102	循環器	瀬戸口雅彦【循】 初診	村上輔【循】 初診	市川健一郎【循】 初診	野田誠【循】	池ノ内孝【循】		
		3 診 2103		吉村直樹【炎腸疾】	三浦英明【肝】	江本範子【呼】	三浦英明【肝】	山田春木【肝】		
		5 診 2105		石森太郎／江本範子		柳富子【血】		大河内康実【呼】		
		6 診 2106		高添正和【炎腸疾】	酒匂美奈子【炎腸疾】			吉村直樹【炎腸疾】		
		8 診 2108	初診	吉本宏／三浦英明	吉村直樹／田中隆久	山田春木／大河内康実	松野高久／岡本陽祐	辻亜紀／酒匂美奈子		
		9 診 2109	呼吸器	笠井昭吾【呼】	徳田均【呼】	小林晶子(リ膠)要予約	砂金秀章【呼】	徳田均【呼】		
		10 診 2114	消化器	松野高久【消】	福土剛蔵【消】	斎藤聡【消】	畑田康政【消】	河口貴昭【消】		
	内科2	11 診 2117			杉山雄大【糖】	齊藤寿一【内分】	齊藤寿一【内分】	後藤温【糖】		
		12 診 2118		辻亜紀【糖】	西田潤子(健増)	後藤佐智代【糖】	後藤佐智代【糖】	田中隆久【糖】		
		13 診 2119		—	小澤千紗【神経】	吉本宏【腎】	三浦元太郎【神経】	五十嵐奈央子【腎】		
		内科1 2100 内科2 2190	午後 専門外来 (予約制)	1 診 2101	循環器	堀真理子【循環器】	(野田)	山本康人【循】	【ペースメーカー外来】	
				2 診 2102		村上輔【循】	村上輔【循】		野田誠【循】	—
3 診 2103				吉村直樹【炎腸疾】	山田春木【肝】	山田春木【肝】	山田春木【肝】	高添正和【炎腸疾】		
5 診 2105	血液			柳富子【血】		柳富子【血】		—		
6 診 2106	CD／UC				金井隆典【炎腸疾】	高添正和【炎腸疾】	高添正和【炎腸疾】	吉村直樹【炎腸疾】		
8 診 2108					河口貴昭【炎腸疾】		市川健一郎【循】			
9 診 2109	呼吸器			大河内康実【呼】	石森太郎【呼】	笠井昭吾【呼】	徳田均【呼】			
10 診 2114				畑田康政【消】	齊藤聡【消】	酒匂美奈子【炎腸疾】	酒匂美奈子【炎腸疾】	河口貴昭【炎腸疾】		
11 診 2117				市川健一郎【健増】	齊藤寿一【糖】	藤林和俊【糖】	辻亜紀【糖】	—		
12 診 2118	糖尿	實重真紀【糖】	富澤珠美【健増】	田中隆久【糖】	田崎麻衣【糖】					
13 診 2119		齊間恵樹【腎】	秋山美奈子【腎】		遠藤陽子【腎】	西田潤子【増進】				
大腸・肛門科 2160			初診	山名哲郎	佐原力三郎	古川聡美	岡本欣也	岡田大介		
			再診	岡本欣也	山名哲郎	岡田大介	佐原力三郎	古川聡美		
		午 後		森本幸治	—	西尾梨沙:高橋聡	—	西尾梨沙		
外 科 2120			2121	日下浩二	万代恭嗣	伊地知正賢	万代恭嗣	柴崎 am 一般／pm 乳腺		
			2122	坂田宏樹	柴崎正幸	—	戸田健夫	日下浩二(奇数週)		
		呼吸器外来		馬場峻一	—	森田理一郎	森田理一郎	伊地知正賢(偶数週)		
		心臓血管外来		—	恵木康壮	高澤賢次				
		産婦人科 産科 2130		婦人科予約	2136	飯塚奈緒	手塚真紀	櫻山智子	樋口紗恵子	坂巻健
婦人科予約				市瀬菜里	市川麻佑子	小林浩一	後藤美希	藤森啓太		
婦人科予約外	2132			藤森啓太	交代制	樋口紗恵子	【交代制】	飯塚奈緒		
産科午前	2135			樋口紗恵子	【交代制】	坂巻健	小林／手塚	後藤美希		
産科午後	2135			—	樋口紗恵子	—	藤森啓太	櫻山智子		
整形外科 2180					1 診 2181	整形(交代制)	栗本久嗣【脊椎】	飯島卓夫	飯島卓夫	飯島卓夫
			2 診 2182	俣田敏且【脊椎】	徳山周	徳山周	俣田敏且【脊椎】	早坂豪【脊椎】		
			3 診 2183	脊椎【交代制】	田代俊之	脊椎【交代制】	仲田紀彦【脊椎】	田代俊之		
		午後 専門外来 完全予約制		—	—	—	早坂豪【脊椎】 14:00～	飯島卓夫【腫瘍】 田代【膝スポーツ】		
		脳外科 2140		脳神経外科		初診救急のみ	武田泰明	高草木宏之①	武田①神保②	紹介救急①(武田)
脳血管内治療科				小山俊一①		紹介救急(小山)		小山俊一②		
神経内科	2 診			高橋祐子【神経内科予約】 9:00-12:00		叶内匡【神経内科予約】 14:00-17:00		—		
小児科 2110		午前	1 診	小林朋佳	小林朋佳	小林朋佳	小林朋佳	小林朋佳		
		午前	2 診		橋本康司	板橋寿和		右田真		
		乳児健診		小林朋佳	小林朋佳	牛腸義宏	小林朋佳	小林朋佳		
		午後 完全予約制		小林朋佳	小林朋佳	牛腸義宏	小林朋佳	小林朋佳		
		予防接種		小林朋佳	小林朋佳	牛腸義宏	小林朋佳	小林朋佳		
		眼 科 2150			2152	坂本純平	坂本純平	坂本純平	坂本純平	坂本純平
	2153									
泌尿器科 2170			1 診	—	加藤司顕	加藤司顕	加藤司顕／小田金哲広	加藤司顕		
			2 診	小田金哲広	—	小田金哲広	—	中村雄／小田金哲広		
耳鼻科 2225			2224	牛尾宗貴	浦中司	牛尾宗貴	牛尾宗貴	竹内成夫		
				竹内成夫	平野真希子	竹内成夫	浦中司	浦中司		
				2 週 4 週月曜休診	午後 竹内成夫	—	午後牛尾(予約)	—		
皮膚科 2220		午前	2223	鳥居秀嗣	仲優	鳥居秀嗣	鳥居秀嗣	鳥居秀嗣		
			2222	三宅温	三宅温	三宅温	三宅温	三宅温		
		午後		【手術予約】	鳥居秀嗣	三宅温	【手術予約】	【手術予約】		
歯 科			2210	中野雅昭／熊谷順也	中野雅昭／熊谷順也	中野雅昭／熊谷順也	中野雅昭／熊谷順也	中野雅昭／熊谷順也		

総合医療相談室のご案内

受診相談・予約／検査予約

問い合わせ・申し込み先

総合医療相談室 8:30～17:00

電話 03-3364-0366 FAX 03-3365-5951

直接予約できる検査

以下の検査は直接お受けできます。

注意事項などを記載した検査票は、お申込時にFAXにてお送りします。

検査当日、患者様に紹介状をご持参くださいますよう、説明をお願いいたします。

1. レポートは当院専門医が作成の上、1週間以内に先生宛に郵送いたします。
2. お急ぎの場合は、お申し出くだされば各検査責任者より電話にてお知らせします。

予約の手順

電話予約

- 検査・診察
- 日時 ● 連絡先 等

当院より直ちにFAX送信

- 予約票
- 注意事項 等

受診当日

診療情報提供書、保険証を忘れずにお越しください。

放射線検査	単純CT 単純MRI・MRA ※CDの場合は直接手渡しできませんので、お手元に届くまでに3～5日程お時間を要します。 ※平成26年5月より、放射線検査が必要な患者さまにつきましては、関連診療科にご紹介いただき、各診療科毎に対応させていただきますので、ご理解賜りますようお願いいたします。 胃透視 一般撮影 骨塩定量(骨密度)
内視鏡検査	上部消化管内視鏡 大腸内視鏡
生理検査	腹部超音波 心臓超音波 甲状腺超音波 頸部動脈超音波 ホルター心電図 脳波

予約可能な診療科

炎症性腸疾患センター、血液内科、内分泌・糖尿病科
眼科、泌尿器科、産婦人科、
整形外科(脊椎・脊髄センター、腫瘍外来)
一般外科、乳腺外科、ソケイヘルニア外来、
あし外来(末梢血管外科)
大腸肛門病センター
(佐原医師のみ:木曜日)



三吉家エントランスの
薔薇(ピース)

新宿区の肺がん二次健診の 受診時のご協力のお願い。

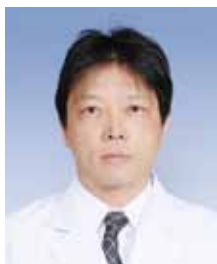
- 水・木曜日は**呼吸器外科**にて**要予約**。
- 月・火・金曜日は**呼吸器内科**にて**予約不要**。

フェアウェルパーティーを 開催しました



平成26年3月29日 社会保険中央総合病院フェアウェルパーティー

社保に過去、現在関わっていた者が将来の
東京山手メディカルセンターのために集まり心が一つになりました。



この4月より東京山手メディカルセンター整形外科に赴任しました田代俊之と申します。この場をお借りしまして、自己紹介をさせていただきますと思います。

私の出身は杉並区で、都立西高、山梨医大で学び、平成2年に東大整形外科に入局いたしました。大学では膝診療グループに所属し、その後東京通信病院、JR東京総合病院で主に膝の治療をしていました。JR病院には10年間勤務していましたが、新宿区医師会の先生方にも大変お世話になり、多くの患者様をご紹介頂き、ありがとうございました。

さてここで、今まで取り組んできたことについて、いくつかご紹介させていただきたいと思います。まず今日の医療について考えてみると、従来はその目的は、いかに寿命を延ばすかという点に置かれていたと思います。そして、様々な分野での進歩のおかげで、我が国は世界有数の長寿国となりました。しかし、ここに至り我々の医療の社会的ニーズは次の段階に入ることを余儀なくされております。つまり、いかに良く年を取るか、すなわちいかに健康寿命を延ばすかが、医療のこれからの目標になってきております。そしてこれは、医療費、介護費の抑制が必要であるという、社会の問題点とも合致しております。



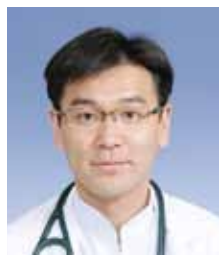
その中で変形性膝関節症は介護になる原因の主因であり、整形外科学会でもロコモティブシンドロームという概念を作り、介護の予防という観点から重要視しています。変形性膝関節症では末期で痛みの強い患者様には人工関節置換術や高位脛骨骨切り術などの手術が必要となり、私も多くの患者様に手術を行っています。ただ同時にこの病気にはダイエットや運動など生活習慣の改善が大きく関与していることも知られています。私はJR病院で10年間毎月「中高齢者の膝痛教室」という健康教室を開催し、患者様が手術をしなくても、生活を続けられるように啓蒙活動を行ってきました。この活動は時期をみて当院でも続けていきたいと考えております。

またもう一つの専門領域はスポーツ整形です。特に膝の半月損傷や靱帯損傷の手術を行っています。JR病院ではJR東日本の実業団駅伝チームのドクターをしていた関係から、長距離選手、マラソン選手のけがを見る機会も多くありました。実は自分自身は学生時代はバレーボール部でしたので、むしろ長距離走は嫌いでしたが、最近健康管理を含め、自分でも走るようになり、ハーフマラソンなどにも参加するようになりました。今年の新宿ハーフマラソンも参加し、最後の国立競技場で良い思い出を作ることができました。

病院も4月から新しい組織になり、縁あって、その最初の採用者となることになりました。今後東京山手メディカルセンターが地域の患者様に安心してご利用いただける病院になるように、微力ながら努力していこうと思います。特に膝の疾患に関しては子供から高齢者まで、保存治療から手術治療まで対応して行きますので、よろしくお願いいたします。

地域連携室開設、 総合内科医長就任のごあいさつ

地域連携室長・総合内科医長 笠井 昭吾



はじめに:

先生方には、日頃大変お世話になっております。2014年4月1日付けで、総合医療相談室内の地域連携室長に任命されました笠井昭吾と申します。旧社会保険中央総合病院時代、総合医療相談室は専従看護師の伊藤美智子看護師長の他、5名の事務スタッフで運営していましたが、新病院に移行し、機構名「地域医療機能推進機構：JCHO」の名称の通り、これからは更に地域の先生方との医療連携・地域包括ケアに力を入れていきます。そのため新たに地域連携室に医師を配置することとし、私が任命されました。

私の自己紹介をさせていただきます。平成6年から2年間、日本医科大学付属病院での初期研修終了後、平成8年に当院内科(呼吸器内科)に後期研修医として勤務し始め、平成15年に呼吸器内科医長となり、今年で勤務19年目(医師としては21年目)になります。当院内科の中では高添副院長、血液内科の柳部長について3番目の古株になります。これまでは呼吸器疾患の紹介患者様の診察を中心に、時間外・当直時間帯では救急紹介患者様の内科診察もさせていただいてきました。これからは地域連携室長・総合内科医長として、先生方との連携を更に深め、より迅速かつスムーズな対応に心掛けてまいりますのでよろしくお願い致します。

当院の総合内科・地域連携室:

当院総合内科・地域連携室を以下に紹介させていただきます。

【初診外来】内科初診と循環器初診を設け(11時まで)、その日の担当医師が診察に当たっています。

【救急部門】内科救急と循環器救急を設け、救急患者さんの対応を24時間体制で行っています。当院の年間救急車受け入れ数は2000件以上です。2014年4月1日より救急専任の医師(笠井:地域連携室長兼任)を配置しています。

【当直体制】夜間(17時以降)・休日は内科当直と循環器当直を置き、外科当直・産婦人科当直とも協力し診療を行っています。各専門分野医師のオンコール体制も整えています。

【地域連携】専任の医師を配置し、看護師1名・事務員5名とともに地域連携業務を行っています。新宿区の委託を受け、在宅緊急一時入院病床制度に協力し、新宿区地域医療機関から在宅患者さんの入院依頼への受け入れ態勢を確保してい

ます。また新宿区医師会と協力し肺癌検診写真読影などの検診活動や、新型インフルエンザ対策として地域BCP(事業継続計画)の作成に取り組んでいます。

【研修医教育】これまでは、臨床研修医初期研修、各専門領域の後期臨床研修を行い、総合内科認定医・専門医、各臓器別専門領域の専門医取得にもつながる研修を行ってきました。「地域医療機能推進機構：JCHO」の基本方針の一つとして、総合診療医の育成が挙げられています。この方針を受けて、当院では「地域密着型」の後期研修を行うべく、私がプログラム責任者として、現在、「地域医療機関の先生方とともに若手医師を育てる」プログラムの作成に取り組んでいます。

総合医療相談室スタッフよりごあいさつ



三吉 明

総合医療相談室:室長補佐

社保中が以前、大久保にあったことをご存知でしょうか?

1987年に大久保通りを閉鎖して、自衛隊の輸送車で患者様を運び、山手線の反対側から百人町に移転しました。10年程前には病院の存続問題が発生しましたが、皆様のご支援のおかげで、4月より新機構の一員として発足出来ることになりました。御礼申し上げます。昔の事を語る職員も少なくなっていました。私のような老兵でもご年配の患者様には、知っている顔が居ると安心すると言って頂けますので、それを励みに地域の皆さまの、お役に立ちたいと思っております。



伊藤美智子

総合医療相談室専従看護師

看護師長:室長補佐

平成16年4月に「総合医療相談室」は開設し、医療・福祉・介護連携及び患者サポートに関する業務を行って参りました。今年度の新機構への移行を機に総合医療相談室内に「地域連携室」が誕生しました。つきましては、紹介患者様の受診から退院後まで切れ目のない医療が提供できるよう地域医療連携、退院・在宅支援、医療福祉相談の連携業務を充実させていきたいと思ひます。皆様により信頼される「地域連携室」となるように一層努力して参りたいと存じます。どうぞ、お気軽にご利用ください。

おわりに:

「患者様一人一人を大切に」「若手医師とともに現場で汗をかく」が私(連携室長)のモットーです。これからの東京山手メディカルセンターをよろしくお願い致します。



東京山手 メディカルセンター

〒169-0073 新宿区百人町3-22-1

総合医療相談室 ☎ 03-3364-0366

FAX 03-3365-5951

<http://www.shahochu.com>



この冊子は環境にやさしい有害廃液の出ないクリーン印刷で作成しています